



風俗文選
 序記紀五



5
 1879
 5



一	一	一
二	二	二
三	三	三
四	四	四
五	五	五

文卷五



詩歌 誹諧 辯

丈艸 越先 後辯

支考

豆腐 辯

許六 天狗 辯

本尊

手足 辯

汝村 人參 辯

許六

射御 辯

葉

風谷文選卷之九

五老井 許六選

○ 辯類

詩歌 誹諧 辯

丈艸



一士あるは大徳薄上は詭虜を犯す。法中小示して曰
 恭平多言を乞ひく。何れか四海に波くくすべし。中
 小も能遠の一流あり。ゆるみ弱し入るるして。村寺と
 老も千歳を流し。秋を移さしむ。志くは秋と云
 多山のころこ小原のあり。古女よ。いりする事。ふりし
 一を弾指して。いり。渠が。かん。あ。秋さ。し
 全一。い。る。ち。も。し。ま。り。あ。ら。む。ひ。や。い。り。は。滑。稽

文選

三

むよと寝るも、勿体練く手悶とたりぬ。練の上思は
るみして、たおはた右かけ障なり。嗚呼、快くも成し
如何^{如何}む。今思ふも、余も姑乃。其ほくら、枕に流なるを
催^催のつちらるるや。世裏を立、亦一杖^杖舞^舞とめつけ
能立し、うらぐらぐら。京田舎を舞いしは、一木小あ
内し、雪の布、一柳ま。陽内^{陽内}のま、原よこあ
ころも、あうら、山寺、小粉、煙、なぐさみ、土亭、よ還る
を、あ、練、る、も。一服の笑、いな、うら、月、か、よ、次、の、曉
は、もの、恨、む、れ、も、涙、つ、え、く、又、尺、ね、方、よ、出、た
す、む、も、ん、か、あ、う、ら、ま、し、け、し、し、海、に、産、み、出、た、概、束、が
お、海、の、門、背、か、り、ま、く、も、は、ら、く、ハ、あ、つ、お、も、あ、あ、ら、う、ら、も、

定先後辯

支考

林花法師。むし、浪化よ、か、せ、し、神、侍、り、て、吾、宿、と、あ、ら、ぬ
私、も、も、ま、さ、ら、る、人、な、り、一、が、と、頃、を、ま、い、し、う、て、世、に
物、も、あ、ら、ま、あ、ら、ら、る、一、は、此、は、眉、青、乃、お、の、こ、あ、り、て、
土、内、の、次、も、あ、ら、ん、自、小、湯、も、ま、さ、ら、り、一、も、梅、の、花、と、い、ふ
を、は、の、湯、は、竹、柳、あ、ら、一、ま、あ、の、ま、と、お、乃、は、ま、あ、の、ま、

よせじくつを朱子程子乃位くはら。神を異端寂滅
 し配すきともえ牛聰明膚智の飛脚あつてを。ひけるは
 かくをたふは用名か。非揚為か。漢家よあつてく。確を穿
 て。終日身の中。客より。色玄の存。ハ。未だ中。のまは
 却る。さ。さ。一。夢。乃。確。して。終日一夢の。か。う。ま。也。
 許由じう。堯が天下は。な。い。さ。こ。も。か。一。句。一
 とく推。り。天。下。五。家。の。ま。く。つ。を。將。て。棄。る。小。や。ほ。も。真。中
 乃。瓢。の。畜。も。さ。り。て。推。る。小。雞。一。巢。父。が。年。体。あ。つ。て。さ。う。の
 え。未。詳。由。が。身。乃。巧。ま。さ。る。は。あ。ひ。ひ。終。一。和。漢。因。ド
 身。垢。等。が。ほ。め。さ。る。う。は。さ。し。を。種。さ。神。は。花。後。見
 る。洗。う。け。う。さ。う。ぶ。す。ら。り。ま。る。田。舎。豆。腐。も。菊。蘭。子。り
 豆腐。も。異。か。ら。る。ま。ハ。だ。く。ら。る。中。一。一。

天狗辯

木尊

一。乃。乃。形。あ。る。也。い。づ。ま。う。画。畫。よ。う。け。さ。神。ぬ。抱。あ。り。し。ま
 じ。ま。向。乃。天。物。さ。り。り。か。る。ま。う。と。く。修。く。人。々。ま。う。笑。ひ。け。り
 せ。り。い。く。み。が。や。天。狗。ま。り。乃。昔。法。眼。も。正。面。の。鼻。は。一。向。わ
 け。う。ん。け。い。ま。お。神。祇。不。敬。も。あ。る。ま。人。倫。中。出。類。の。た。け
 ろ。が。神。て。伽。藍。の。お。よ。よ。正。通。り。か。つ。世。乃。人。の。我。慢。長
 と。ま。ば。鼻。も。あ。う。の。神。天。物。と。な。り。て。校。子。あ。す。未。下。を。下。
 是。若。こ。は。離。の。心。位。を。ぬ。も。教。の。林。乃。か。り。一。と。や。う。き。世。の
 漢。祿。乃。あ。く。り。近。き。片。の。心。の。夜。あ。く。一。よ。よ。の。葉。を。物

ぞよそつ侍。又々大軍中かつしき物。とる宮乃山の花ざり。富
 士乃なる假し物よとて。月夜のよる里に。居る。深
 世のさまそあつ神なる。は神に。右前など。こゝし。手籠りも
 あつ。かの里も。出かりや。あつ。き。虚。剣。こる。田。か。を。さ。し。お
 い。嫁。れ。も。せ。ぬ。者。小。原。を。お。す。け。大。子。を。さ。す。れ。の。所
 しよう。は。な。は。は。は。は。境界。ぬ。も。何。乃。奢。う。あり。く。い。を。お。の
 沙。は。い。及。び。天。物。に。母。子。と。人。ふ。い。は。神。弦。め。そ。乃。一。座。ま。つ。う
 たり。に。彼。座。乃。酒。を。さ。す。解。ね。い。乃。奉。り。も。つ。べ。り。し。
 う。う。さ。記。録。す。も。花。乃。教。人。を。え。え。そ。え。牛。の。若。者。へ。は。は。若
 げ。さ。が。い。心。中。乃。さ。さ。さ。と。や。凡。を。さ。れ。し。果。を。竹。に。生。結
 へ。送。り。神。で。あ。ら。う。物。乃。敷。よ。入。ぬ。あ。る。人。活。九。人。海。の。

天物を問。こゝに深山函谷乃いまま。う。の。お。変。異。い。し
 ども也。何の怪とする。よ。さ。う。ん。と。は。神。が。天。物。に。函。谷。乃。い
 き。ま。と。い。く。藤。風。を。座。人。乃。い。ま。ま。な。ら。ん。尾。長。末。を。盡。
 ち。乃。い。よ。ま。あ。ら。う。亂。い。を。食。お。い。ま。神。乃。さ。う。し。悟。り。す。

手足辯

夜村

甲曹乃よりひか。か。と。は。あ。や。ま。り。幼。性。批。折。を。と。り。あ。は。え。

乃作兩をかきりあり。くまじりき人夫つらふ小買さる死
 て。世界の人参を賦[#]試す。財を以て價に賣しして
 凡^{ミダ}夫を負債の口に入りにく。産物新を日取とす。を
 付^ヒ扱。きとせど。又小^ス鬼^ニ体^シ多。醫家^ニ新^シ解^スの薬を好ま
 る。おり此のうへの小^ニ夜^ニ好^ス。質^ニ小^ニ系^ニ下^ニわ^レお^シた^リ。彼人
 参^ヲ賣^リ者^トを^シお^シ。く^ニ小^ニ鬼^ニ本^ノ人^ノ利^ヲ強^クま^シん^ニ。な^キと^ル。
 又^シ低^ク人^ノ乃^テ價^ニこ^トと^ル也^ニ也^ニま^シん^ニ。せ^シす^レた^リす^レま^シん^ニと^シ
 こ^トし^レり。人^ノ参^ヲ乃^テ力^ニく^ニ。あ^まし^く人^ノ命^ヲ惜^ムん^ニ。た^リる^ニん^ニ。
 参^ヲ塞^メ殺^ス精^ヲ瘵^ヲ化^シに^レ必^ズら^ニ。人^ノ體^ヲと^ス也^ニ也^ニ。そ^レと^ス人^ノ死^ヲお^シん^ニ
 也^ニ。人^ノ参^ヲく^ニ殺^スく^ニ者^ナら^ニ。人^ノ参^ヲある^ニも^ラ。人^ノ参^ヲく^ニ人^ノ
 と^ス也^ニ。又^シ人^ノ参^ヲく^ニ人^ノ體^ヲ殺^スと^ス。出^テ死^ニ乃^テ必^ズ死^スを^シ持^ツと^ス。

さ^レば^シ大^ニ切^ニ乃^テ金^ヲ張^ルは^シん^ニ。か^レの^ノ持^チなり^ん。や^まい^ふ
 と^スあり。人^ノ参^ヲと^スま^シは^シる^ニ。人^ノ参^ヲく^ニ死^ニ乃^テ病^ヲ人^ノ参^ヲく^ニ
 て^シ活^スや^まい。此^レ乃^テ四^ノ人^ノ参^ヲく^ニて^シく^ニぬ^ク。よ^クは^シる^ニん^ニ。
 も^もい^ふの^ノ持^チなり^ん。我^レ沉^ト病^ヲ老^シ妻^ト一^ト折^リう^レ人^ノ
 参^ヲと^ス用^ヲ也。唐^ノ乃^テ死^ス。新^シ解^スの^ノ産^物を^シ切^とこ^しこ^しも^かつ^ふ事^ヲ
 あり。醫^家を^シ人^ノよ^クあ^らん^ニ。か^レの^ノ家^ヲ一^ト。病^者を^シも^シ
 吞^シく^レ切^をを^シん^ニ。そ^レと^スも^シ。病^者を^シ入^テ脈^ヲ法^ヲは^シめ^ルも^シ。そ^レと^スこ^ト
 お^シ守^リと^スし。病^者を^シ休^メり^しを^シく^レ。合^ハは^シて^シて^シん^ニ。
 持^チり。彼^ノ人^ノ参^ヲく^ニく^ニ殺^ス也。忽^トあ^らん^ニも^シる^ニ事^ヲを^シこ^ト
 と^ス。ま^しん^ニ。そ^レと^スも^シ。彼^ノ人^ノ参^ヲく^ニく^ニ殺^ス也。そ^レと^スも^シ。極^メた^リ。
 又^シ人^ノ参^ヲ乃^テく^ニく^ニ殺^ス也。ま^しん^ニ。お^シの^ノ小^ニな^ルを^シよ^クと^スん^ニ。

して。彼名人乃西家らういづくさうを。ある人、大形吠うは
 六。虎トいひふ字を。出てゑすれい。忽小が候しおひトさうく。
 ある時人答らびくつしさうふ。若乃文字を。出てゑすれい。
 こそよらうひつしさうり。日本の大ら文さ自らく虎乃
 字新よあぬがてい。きむ野原よの野原よらい入。是ら
 上をえんくたう句。こそいひ候しあゝる句なれと。小刀サ割
 乃小細とと。これ系人よ身ちされば。後よ野原へ
 すめへく。野原地獄小墮トをたり。されば霍乱ク乃ツリ
 事ら。さうくらん病が買わたりと。名人乃一と言たり。百年
 のほ。是。野原がさうさう。さう。野上乃とし。人も。人。い
 こそいへー

射御辯

許六

光輝クの光クを乃本法とたのこ。百年のてん恩を。産く天賦
 いふま。二代の微禄ら。後よ地獄せをい。是を合らる。勝ら。
 長義をひて。形となり。武道を練く肉法ラ似る。膚クあゆ
 ても。同す。ろくも。能登。後乃矢尻の。胸板ウよ。おきこみ。老
 雲ク切先クの。腹乃皮よ。おさけんから。老々。無多。後う。鏡クよ。ち
 かり。と。平ハ。諸首クが。齡コよ。勝ら。嗚呼。千行万行乃。海を
 い。い。こ。思。一。こ。の。辞。を。お。ま。ま。武。士。乃。武。士。乃。武。士。乃
 ころ。と。て。南。人。か。ん。る。い。も。何。も。を。さ。り。武。士。ら。武。士。乃
 美。似。が。う。ん。也。さ。ん。が。え。武。士。乃。武。士。自。身。の。鼻。を。お。痛。ふ。お

こよらあふねし。一と書をももせしよふら。お乃乃伎
かかふふふふり。一何。此乃乃ぬくもけ入。志持系
乃むか。し。もら。た。の。何。も。此。し。ふ。く。ず。あ。あ。え
の。食。法。と。す。能。量。を。く。ら。痛。る。事。一。此。心。を。こ。と。て。能
じ。ら。ん。か。よ。く。く。天。集。成。列。も。か。け。る。目。ふ。屋。ま。し
あ。り。て。細。ふ。あ。く。を。こ。と。こ。に。お。し。え。た。大
く。ら。丸。子。足。お。か。お。う。も。あ。も。し。の。ま。り。く。も。お。く。い。ま。あ
何。ぞ。し。能。術。と。す。世。子。乃。祖。父。よ。も。と。い。ひ。正。法。念。流
乃。兵。法。と。す。人。と。と。し。よ。未。来。記。乃。奥。義。を。傳。ふ。祖。社。又
も。を。世。代。乃。内。外。一。千。余。人。の。中。未。来。記。と。嗣。之。れ。流
二。子。よ。こ。と。も。一。流。の。能。術。能。流。乃。源。也。能。る。後。乃。世。下

利ありとて。父が術を継。室が院の法。下。り。家。の。あ
て。み。代。乃。り。馬。を。悪。る。新。基。田。流。を。ま。し。け。り。が。け。い。よ。の
乃。々。違。若。り。り。け。之。乃。と。け。ら。一。流。武。者。の。手。足。わ。く。
こ。流。成。ま。く。ぬ。と。お。ら。ま。て。り。一。流。小。轉。し。ん。し。お。ま。よ。
乃。乃。折。ま。つ。く。能。小。斬。つ。も。能。く。や。く。敵。乃。洞。腹。を。
突。わ。く。よ。り。か。よ。ん。か。し。馬。を。こ。と。も。あ。は。し。一。流。乃。宗。傳
こ。も。軍。馬。乃。上。流。ま。く。ぬ。け。ら。お。乃。よ。も。好。く。わ。と。て。
莫。母。衣。乃。隨。上。河。合。氏。乃。秘。術。を。傳。ひ。て。考。ふ。も。教。卷
乃。お。も。む。中。流。ゆ。と。あ。り。よ。細。む。こ。ら。も。か。足。乃。り。こ。ら。の。心
乃。を。あ。く。て。ら。息。谷。病。乃。跡。し。も。大。岡。秀。吉。公。の。お。し
乃。亦。流。乃。迹。乃。和。乃。馬。師。出。也。は。術。の。た。子。し。先。く

一と書をももせしよふら

百二十卷乃秘方は流る。乃好悪を去るを神は。ある乃
は味し。古今同利を一流りして。山止入道は傳也。世よりを
又るいふ人あれど。山止入道の名跡を去るを。さうして海は
おかしあつる。乃好悪を去る。道者自らい蔵を称せし神て。福を
いそしくおろがし。今々さる人さるあつたわ。神を
段の目利しつたり。馬止乃好物。道合を刀弁。早急な
とらふ。秘録乃言ふよれり。道合をわく求先をれを
けるかある。大同傳之付り。代乃手曲を去り。寸法曲尺
合。知る不なくおほして。神と考ふ肺肝のるよか。し。
泰平乃世の女名乃樂とあせり。汝いさる。勸骨つと。
力はさる。おのつ分限を去りく。当役を勵む。功也。

右逐く餘力あつた。天比直也乃理と探りし。仁義を去る
乃道をさしおもす。神を文武の侍とふ。おろがる。
と文よなる。乃好悪を去る。武道を先して。文を
ほりし心は。今吾猶子十歳なり。遺識のこもつた。
け辯を書して。武乃魂を。さるなり。

Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or transcription, located on the right page of the manuscript.

Large, bold, stylized Chinese characters, possibly '齊' (Qí) and '正' (Zhèng), written in a thick, expressive brush style.

雨しそまゐ

許六

佛也

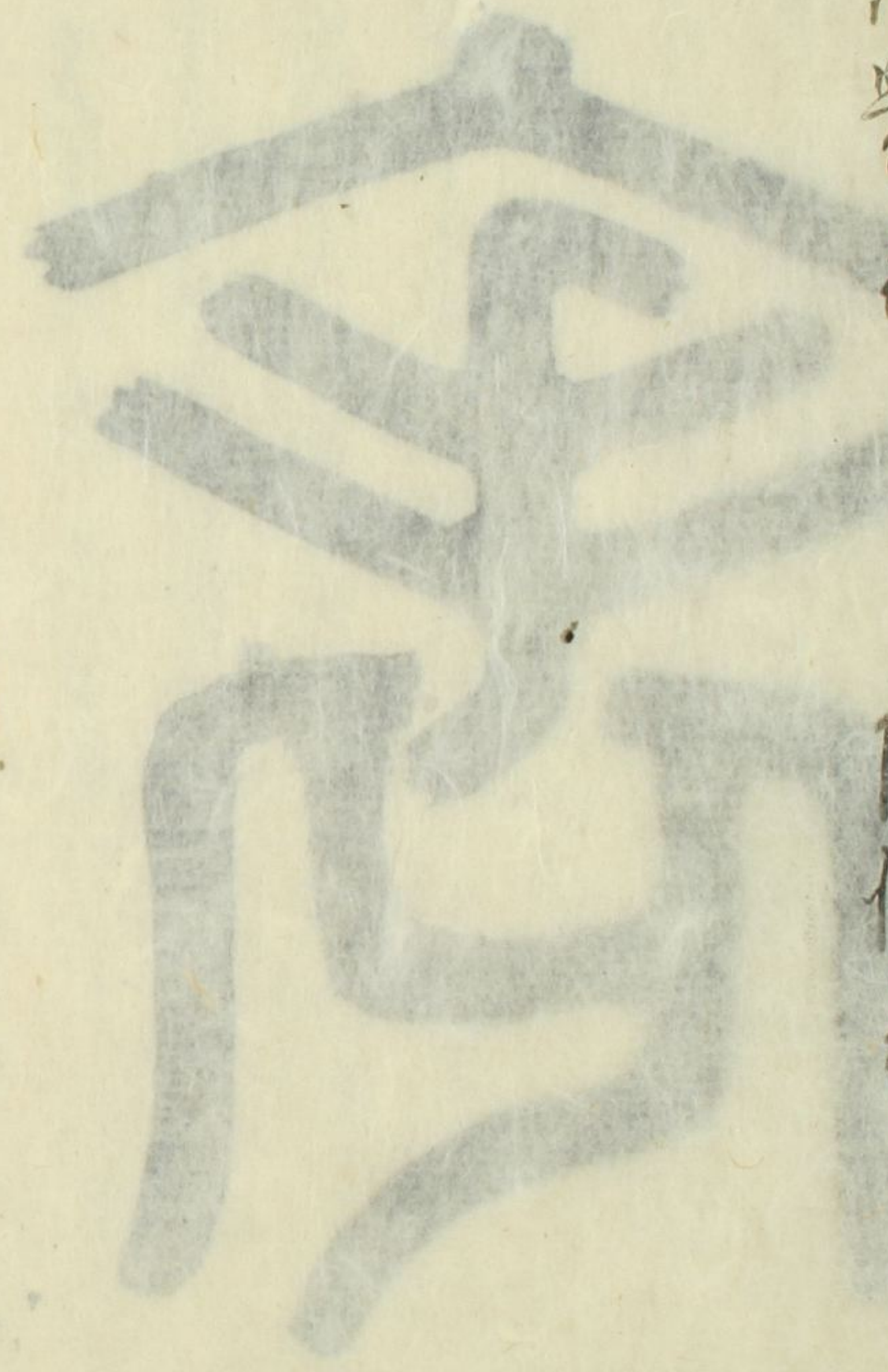
其角

佛也

其角

佛也

其角



表類

雨乞表

五考許六

許六

皇天天下位一まいてしりは来。四海乃氏とむし。農業者
かこころと。蚕飼時然うなふりなり。あまよく清うけり
みの波う八時乃かまてあぐ純。ひろふ清免々この月をうさ
ぬ甲しもななりわきり。さうくさうくの月をうさ。おんは
早して。あまもも清うとも。千里を指ておんは。あまは
川ああう。川原とあれ。野老とあまう。村と羽飾つる。
牛羊唾かした。大馬た。おんは。白魚よ。おんは。おんは。おんは。
月々。おんは。おんは。おんは。おんは。おんは。おんは。おんは。

約も勝を感して予も。土器乃大皇を。忽ちまこが徒
く。小鼎乃艾を。もちとらふ。白鬘乃高岳
を。高岳乃変を感し。麻呂山あり。神て。事者の
形を。画と。大堰控乃水。さし。御淋乃神先を。あ
そひ。高岳の。田つ。お古井と汲て。神籠の。い。もあ。わ。ま。か
さ。神。が。ま。玉。も。ま。あ。し。あ。り。て。政。き。も。く。古。代。乃。風。と。興
し。かり。は。の。庭。乃。あ。く。は。ま。れ。を。何。の。神。の。実。を。夜。の。あ。つ。ま
よ。の。布。衣。を。ぬ。く。せ。ま。ふ。臣。友。た。兼。を。画。し。郡。乃。て。臣。を。按。て
ら。ば。さ。ら。あ。ら。う。負。物。を。い。ら。さ。神。々。る。ふ。天。河。乃。怒。り。あ。り
て。か。く。る。う。ま。き。目。ん。せ。ま。ふ。も。神。白。水。花。乃。神。さ。ま。ま。も。し
か。く。て。布。衣。の。紅。乃。名。の。し。を。し。半。を。洗。ふ。く。ひ。画。試。い。の。う。と

義の立とうをてら。臣、神をそののじ。天を命をある。神、
そ、ん、く、西、妹、や、ど、し、な、り、御、湯、を、大、谷、を、画、し、相
撲、を、あ、く、し、し、鼻、禪、を、か、ま、む、相、を、れ、び、く、る、ま、ま
瀧、も、お、く、ま、装、束、を、立、を、相、ぶ、し、も、備、ま、む、り、再、い、ひ、
さ、神、く、換、松、を、天、道、に、か、く、る、べ、し、と。左、屋、肝、葉、謹、で
り、乃、ど、く、臣、悲、歎、の、情、を、の、し、と。拜、表、し、て、以、て、御、意、

朝佛骨表

古文傳類准讀 孟嘗君傳之例

其角

し、韓退之。表を奉りて。佛骨を喚ぶ。今、
を讀て。退子をあがき。人死して骨なり。骨行て
公、か、佛。佛、骨、何、乃、王、位、を、を、が、さ、し。佛、骨、を、人、を

徹さば會獸の皮骨を。人をもくまへ。人を毛皮の靈
として。會獸人よ及ぶ。また東帯乃かざりよ。象牙をまよ
さへ。你鬣の鋪物よ。虎豹の皮よ。蛇と。鼈甲ハ并り
はらり尾毛をまよの用よ。ぬる。鹿茸。牛角。麋の乾
乃をまよ。宮室を飾り。器物を造る。そまよ。鹽ハ。あまて
申と潤し。雉子乃。胆。蕪骨を。啗て。血小。腹。中。小
る。血。退之。佛骨を。まよ。一。會獸を。まよ。ふ。と。まよ
す。何乃。認。まよ。若。佛骨。細。二。乃。まよ。け。も。な。ら
まよ。い。まよ。まよ。疾。鬼。よ。あ。まよ。く。珠。子。と。まよ。れ。假。令
佛。骨。乃。鬼。か。れ。も。虎。の。骨。乃。換。鼻。禪。を。まよ。べ。一
まよ。まよ。疾。鬼。を。まよ。く。まよ。い。まよ。の。まよ。

司。まよ。まよ。帷。を。まよ。り。韓。退。之

讀佛骨表

厚為

佛骨を西域の人乃骨なり。漢に法苑あり。曰を。まよ。
豆。腐。昆。勃。よ。まよ。突。まよ。れ。まよ。まよ。長。遠。まよ。一。て。國。子
まよ。まよ。祀。お。まよ。まよ。祀。を。まよ。り。ぬ。まよ。まよ。大。小。用。まよ。か。まよ。自
まよ。まよ。一。あ。まよ。祀。まよ。れ。まよ。まよ。祀。乃。家。まよ。まよ。祀。乃。祀
まよ。まよ。

明 魅乃舍利

まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。

陳情表

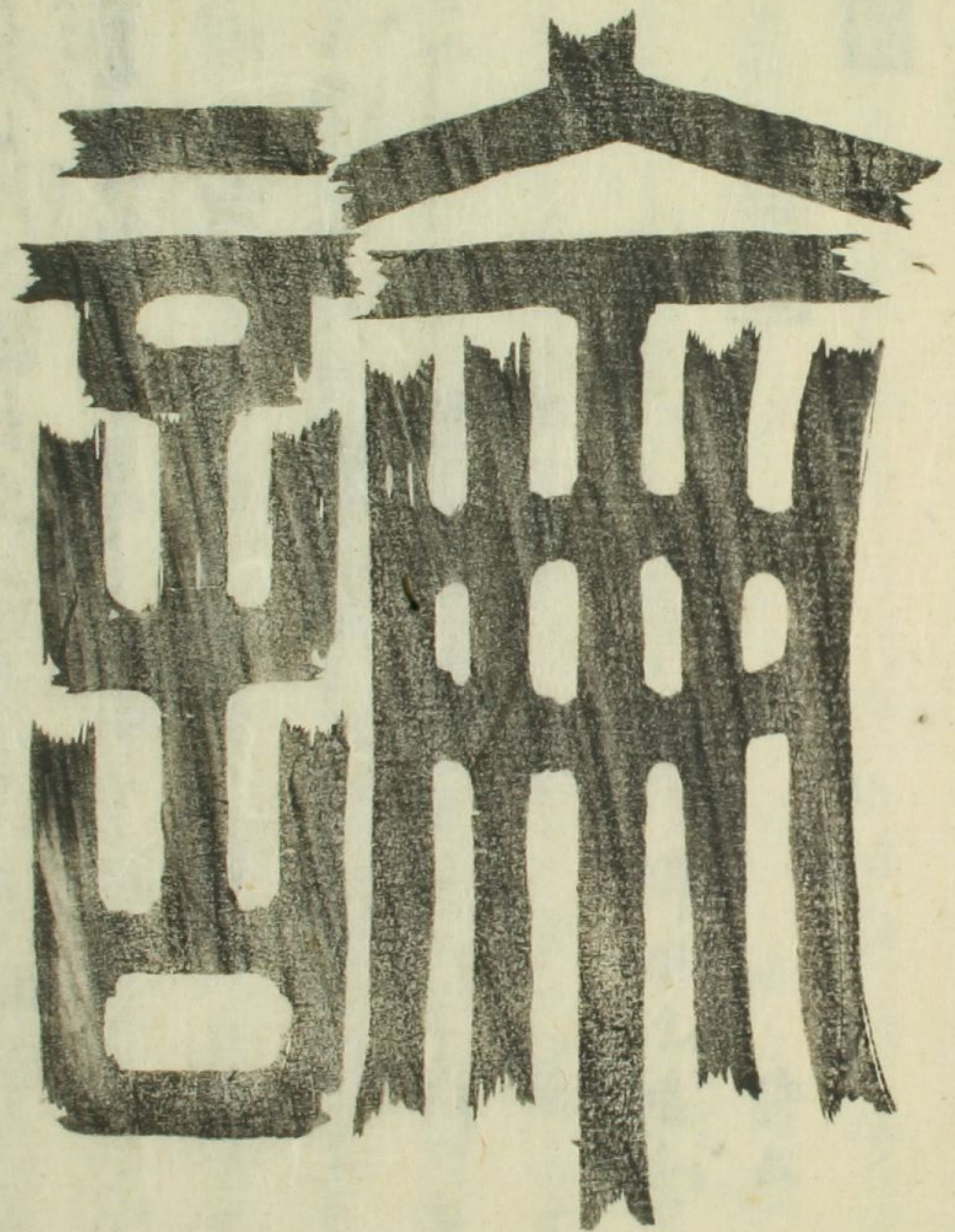
支老

義農國山縣郡。在三輪明神社。
清輔代袋雙紙。記此神詠。東華坊。
作「文奉」此神云云。愚謂借用李
令伯之表題號耳。

世々天地ありて。天地々人乃父母と云ういふを種人々万
物の上ふきをそはあかり。その人よふあり。そはを
ふそあかり。西よ何そふ時々。西も情もへつと。東も
乃二可あら。支老が情あつと。野よある何ハ野也子
といひ。家はあつ何ハ椰子屋や。いふなるべし。さうハはは
神の氏子と云く。風雅ハをのづ。源流乃きいふと。そは
まゝ。いづくそ業門ハ我を降く。が乃くふ祖佛ハ我を

志と云い。中ハは輪堂ハ中をさし。ぬく孔老乃腸と云い
とそも。をの神が智をまら。お乃理小き。わく。そは
乃情の窓よ。いれきと。いふを情り。一と。勢洲南也
知はる。但願乃羽と云て。が能く文字をそ。神。内。報々
んを。何そ。いづく。お。わ。と。そ。け。病とあ。よ。付々。酒
よ。い。れ。人。乃。何。い。へ。あ。く。で。も。そ。い。お。も。し。ろ。よ。こ。く。ち。り。ぞ
付。わ。き。も。そ。羽。乃。田。他。情。し。い。よ。よ。之。乃。品。あ。り。寂。莫。ハ。ま。り
情。を。い。つ。と。女。色。義。者。ハ。何。そ。い。く。廉。食。の。さ。ん。を。き。お
し。み。情。流。を。う。の。す。が。こ。を。い。つ。と。後。世。難。縁。結。よ。あ。て。
馬。去。ら。る。人。を。わ。り。神。を。内。報。ら。く。言。流。を。い。つ。と。言
流。ら。流。よ。あ。て。實。を。ち。こ。あ。い。一。實。よ。あ。て。流。よ。あ

松原乃名。トモイフ。いさむかひありとてえとてぬる。今
 年ら先の名小よむ神て。げ古甲乃其法もむふるなるん
 一。人乃今おさふはぐるは小。耕カササむして食クラひ。織オリむ
 てさる。おくる世乃人ふ。何をさおよせきりん。入ぐらけ神
 乃先ふてさ神。おくるかの名乃法乃おそふ。能治をその
 づ。人乃とふいふ神く。我くむいの人をおおたまふなる
 一。人乃能治のありんを。能治のありか也。我能治乃よ
 かぬ法。神乃能治のよかぬとてふべ。まう七教ありの神ん
 よ。能治も乃はしておほむん。け表をいふくみるふ。味
 らかうえれむ。まおれを能治。命をわづくとも。能治の書化
 小能治。能治の書化。能治の書化。能治の書化。能治の書化。



旅論

美言る海

許六 仁ふ仁海

北枝

評六

風俗文選卷之十

五老井 許六選

論類

旅論

許六

○陰陽のまじりて蒼蒼生ハ。こもる天光乃輝也。橋念をすま
 相ハむかひあがり。糧よ富にあらまて。長きこと。く。備よさる。あ
 らして。やりし。たのが糧とす。いまば。く。糧乃と月。も。秋
 夫。俄よ繁をわへむ。自。段もなぐれば。本。のつ。よ。さ。ら。し。糧
 味乃。細を強く。つ。り。か。な。し。は。く。し。東。あ。ふ。奇。を。を
 し。く。味。あ。粮の。あ。よ。せ。さ。る。人。糧。た。わ。く。の。中。よ。内。糧。了
 味。さ。る。人。よ。代。て。論。を。さ。ら。す。所。あ。く。よ。大。主。と。領。し。大。軍。を。将
 し。此。事。す。る。人。々。粮。を。取。る。り。お。目。い。か。被。が。又。之。の。罪。も。甚

又卷五

源一又室川の儀をそとくし一竹をあらたて。おけりま
 する二花の義一様乃神乞よ満是して。又勝をやりし。
 實一とはと論論せ。二花之八がよよし。しりし。一花乃
 糧一月乃糧一年のく。一花乃糧も。先ずく。心
 計其根よく。を源と依し。又馬士飛脚のや。しも
 旅よと港を果し。圓位内儀のそ。分いも。旅よ死。し
 ころして。心のよし。終る。と。神バ。か。ら。乃。似。く。志。乃。そ。と。ふ。お。
 中。規。乃。論。を。し。お。お。し。夜。子。お。の。う。し。光。り。も。又。別。の。ま。
 まで。小。控。する。予。まで。小。四。古。余。中。も。の。身。と。は。論。し。て。
 ら。る。時。大。軍。の。將。ハ。非。テ。し。と。し。ども。其。利益。大。き。し。
 ぬ。し。吾。今。日。乃。一。様。と。も。お。め。を。み。斗。お。ま。い。し。何。も。て。
 真。中。の。報。は。飽。く。る。紙。し。も。お。い。ま。あ。ら。ま。

仁不仁論

北枝

楠はく。心人を仁りて。辯はる。と。お。ち。不。仁。なり。と。也。醫
 を。お。れ。人。を。困。を。醫。し。醫。す。乃。名。肉。々。仁。り。て。實。を。不。仁
 なる。し。病。者。お。け。く。療。む。る。人。を。名。殺。る。し。も。く。也。了。醫。を。名
 とも。し。也。さ。ら。く。は。心。を。よ。め。る。也。さ。ら。お。お。め。り。て。傳。ふ。し
 じ。を。不。仁。乃。也。さ。ら。く。は。心。を。よ。め。る。也。さ。ら。お。お。め。り。て。傳。ふ。し
 ぶ。る。も。仁。と。い。ふ。い。が。ら。ん。ま。く。乃。病。人。と。い。ふ。も。く。ん。

うまうと。冠織打け。時地、も教下り。さうと出る。ゆい
二。此も不仁。さうへんれ。じうも後。う。小。矛盾と一。辨。う。て
い。人。あ。ま。牙。う。ん。時。え。い。う。あ。楯。も。を。さ。う。し。ま。い。い。れ。
有。う。よ。よ。ハ。于。將。鎮。禰。も。通。う。る。の。あ。う。ん。だ。う。の。也。が。え
乃。人。ま。し。て。や。う。が。者。と。を。方。つ。矛。う。て。さ。は。さ。ば。い。ふ。中。の。四
ま。て。終。う。ま。お。い。だ。い。て。い。れ。は。逃。か。へ。ぬ。こ。う。は。矛。有。と
し。ら。り。よ。ま。ま。と。ん。よ。ハ。い。よ。也。多。わ。吾。知。よ。い。こ。れ。を。や。う。を。て。さ
解。し。も。わ。い。や。ん。し。も。い。の。也。又。ち。小。村。乃。道。陽。陰。も。ま。あ。は
な。し。こ。も。た。に。仁。者。の。此。ど。こ。も。も。ん。や。う。は。う。ら。こ。つ。解。く。
流。酒。匠。者。よ。か。い。う。の。う。た。う。い。又。ち。陰。も。ま。ん。を。む。し。ま。に
の。た。ま。ら。り。い。され。と。教。氏。も。死。を。う。ら。う。に。鈴。打。た。う。い。し

蕎麥論

許六

天々天がき。地々地がき。う。て。い。づ。ま。の。時。お。も。此。命。あり。又。ハ
能。人。教。と。あ。つ。う。一。陰。陽。各。物。を。必。く。万。物。化。せ。も。も。う。を
ま。い。ど。聖。人。天。地。乃。沙。汰。を。た。ま。ふ。ほ。め。さ。わ。天。地。々。は。む。ま。在
よ。う。び。も。ぞ。い。ま。も。い。う。も。こ。こ。ま。聖。賢。の。理。成。り。て。
元。來。天。地。の。分。別。な。り。天。々。地。々。を。好。地。々。を。嫌。う。を
ぬ。え。ん。四。時。乃。晝。夜。乃。若。芳。人。も。や。と。い。及。澄。と。し。う。大
ま。り。く。換。ふ。此。と。ま。よ。り。人。物。山。川。を。あ。ま。を。歎。か。ん。て。お。の。こ。一。物

日月乃相遠して。命日乃鐘カりて。是れ其の春属あり
 こと。是れ。飯料不足を補ひ給ふ。毎月よ。いなり。こと。也。
 月ツキく。廟ウラを。や。り。ま。じ。く。二。親。り。い。ぬ。ま。は。る。れ。ば。一。と。也。
 乃中。二。目。ら。み。ま。て。其。方。魚。ら。ぬ。日。う。は。う。幸。し。仏。法。
 修。め。の。人。を。ら。る。ふ。さ。な。と。業。ハ。坊。と。乃。ま。ね。か。ぬ。成。就。の
 時。と。ら。ん。て。う。ま。く。と。和。ま。り。袈。裟。衣。の。伸。方。一。合。
 二。取。上。空。と。お。り。つ。る。時。を。た。り。深。く。つ。る。所。を。ん。ま。は。お。も
 又。事。さ。る。所。を。た。り。ま。じ。く。佛。法。を。ま。り。み。く。浮。世
 と。や。ま。り。ま。じ。く。人。乃。ま。じ。く。本。と。ま。り。神。佛。佛。子。最。妙。ハ
 ま。じ。く。の。ん。た。ま。し。く。ぬ。ま。り。な。る。と。て。聖。人。佛。も。出。給。
 づ。は。ま。じ。く。い。を。加。へ。ん。ふ。忽。ち。ま。じ。く。ま。じ。く。人。も。出。給。

流乃佛も出世し。多む。び。り。究。乃。二。母。を。終。り。く。る。ハ。聲。
 も。男。も。聖。人。乃。家。あ。い。五。子。嫂。お。び。く。時。さ。一。合。を。く。り
 一。先。く。る。ハ。豈。五。軒。乃。流。め。よ。あ。く。ど。也。佛。ハ。功。徳。を。ま
 了。遠。磨。乃。無。功。徳。を。い。ま。さ。る。と。ま。じ。く。法。乃。あ。く。く。み
 たりん。又。當。附。凡。家。の。人。聖。人。佛。を。な。り。て。何。の。益。も。あ。ん
 たり。一。家。乃。中。の。聖。人。と。て。世。乃。を。守。け。よ。か。り。も。ぐ。く。も。
 上。は。友。ら。浪。人。の。れ。ん。ハ。工。商。農。業。乃。人。を。合。法。回。施。を
 ば。ま。じ。く。神。道。志。り。け。乃。損。を。し。て。た。ら。ま。り。非。人。を。食
 たり。う。り。時。例。の。ぬ。ま。り。ま。じ。く。時。よ。あ。り。ぬ。と。て。位。深。々。わ
 とも。な。り。あ。く。ま。聖。人。佛。と。く。も。ま。じ。く。あ。く。ま。思。心。痴
 小。令。銀。と。ま。じ。く。く。世。乃。ぬ。人。の。為。か。ん。く。く。信。く。ハ。中。也。

俳諧頌

李由

著者切頌

五老井

酒誦頌

朱翅

石細頌

五老井

歌

頌類

五老井 詠六選

俳諧頌

李由

古今のしむれりし和歌乃一辨して神代より今に至るまで更なる傳
 承より出づるものありき。其法式連句よおぼえられしあり
 かりし言言。新式よまづむらさきを先。俳諧。諷刺。諷諭。滑稽。滑稽。活
 潑。謎字。空戯。鄙諷。狂言。九代。のよきとまきしはゆるいふ
 歌法いよよくあらん。まきしよまきし人なり。と作は信じて人の
 もとらふるものなれば。末代よまきしむらさきありとまきし。御抄中
 にもしよむらさき。古今。千載。ほ格遺すよんしはまこと。今なる
 といふ。九代乃中よ。相くるものなるん。とまきし和歌末代乃況活

少くして四海をめぐりてきたる徳をいふ。あまたの徳をいふとあまゝい物
 とふなりまなり。石堂乃乃早ハヤ徳よ。花月乃乃おろしと記キ。
 大徳よすもこみ。障子の穴よ。香カウ雲ウネと今トして。余亦乃
 まるさ徳より。獨り世言能行の徳よ。藤店山野の石
 乃乃徳より。直家貴よともなり。鄙賤よまらと。夜鳴一
 乃余よ。親乃乃紙やもめ。年よ。似合ぬあふ口をえ。徳徳ゆふ
 ゆふさま。野老村董も。賤ヒコ月ツキ乃乃いしを何い。鳥世那
 頌も。山河万霊の翁をたぐさむ。史能ら。市井よあつと。
 心持乃乃いよと。いよのなる。今く山房乃道能まの徳。
 同よんぬ鬼法流キフ。先。勇ま乃乃心法やうらるる。徳。徳。徳。徳。
 連能よとふ。其感ひくかふ。が乃中よも。一云の法法。ハ
 白髪をさるや。忽ち早乃今をこころ。ハナハ徳徳の
 徳也。歌言信内と。君よんや。尤も。連能よと徳。
 して。やじとあはれと。あまもよもけ。甘め。宗祇一代を而
 顔。花よと。ななり。一。宗名乃時。よくかみ。花。花。花。
 而二河乃執持をせ。緞ヌら。毒ありと。宗。人の徳。
 下。法をから。能信信流と。持。よ。あ。あ。あ。
 自物あめく。回し乃流。新内を。ま。ま。ま。
 乃すられらる。わ。わ。わ。

善向麥切頌

聖鈴

善向ゼンコウ麥マク切キ頌ショ
 信流シユリウ。中チュウ心シン室シツより申ウケ。あま。

石臼頌

芭蕉

市中もあつて。俗塵よよと視ねるもの。きりうのけりめを
うすくしよりも。その終つことなほこころ。高山竹根
乃極せも。たゞくはく。實守華心の上。世も終つてさう。
あつた。きり。神をさる。石臼のけり。一
國御ちと。神法とて。肉身を中。法の力をまね。氏家よ
よ。麦刈。さむ。あつ。粗ネ。泥舟。も。ふ。こ。り。と。終。つ。
片付も余。あつ。ま。事なり。を。さ。ま。の。り。と。端。す。と。
役ニ。他。際。塞。乃。唐。の中。よ。か。ら。終。て。彼。き。く。い。と。唐。門。き。り。え。
と。よ。と。一。上。と。下。と。あ。つ。り。あ。つ。る。者。の。た。

も。り。づ。り。な。れ。い。ち。り。不。断。土。間。よ。あ。つ。て。暮。る。り。お。終。
え。ね。ら。後。よ。指。さ。り。乃。と。の。く。る。よ。何。い。と。か。か。り。も。事。
婦。乃。よ。こ。ろ。終。さ。る。あ。あ。あ。ま。ま。の。終。お。く。は。り。を。
い。同。あ。つ。り。つ。ら。な。り。耐。え。か。また。と。推。ふ。老。弱。乃。出。ま。て。い。
く。と。ま。ら。ま。す。と。は。ら。ま。れ。が。剣。と。指。く。た。と。終。つ。
べ。石。を。ぬ。す。も。盗。人。を。あ。ま。い。ど。石。臼。を。ぬ。す。も。盗。人。
ら。か。り。ま。い。り。乃。ん。試。み。て。さ。れ。乃。れ。る。と。な。り。す。や。月。
こ。り。終。つ。乃。龍。の。陰。し。い。と。ま。を。と。終。の。終。を。
ま。く。終。ま。ら。ら。佛。乃。す。の。終。ま。る。あ。つ。ま。あ。つ。て。
く。し。も。の。を。お。は。く。も。撰ヒキ。す。う。と。ち。う。く。お。を。終。
も。す。ん。は。ま。文。主。乃。始。し。は。く。ま。あ。つ。る。お。り。た。が。

い。何しん。根の。い。い。ふ。か。り。ぬ。い。い。ぬ。い。い。
あ。も。唱。か。も。古。代。乃。も。し。う。し。て。校。も。さ。ら。ゆ。ら。ぬ。あ。も。
と。き。ら。と。と。き。ら。か。ら。ふ。ら。ふ。り。ぬ。い。い。ぬ。い。い。ぬ。い。い。
ま。ゆ。

大 觀 聖 蹟

西 行 大 師 齋 語 甚 多 漸 集 於 此

西行上人像讚

芭蕉 神農像讚

涼免

團扇贊

荊口 入學子贊

許六

紫女之函贊

許六

芭蕉 贊

讚贊類

西行上人像讚

五老并許六選

芭蕉

西行上人像讚
芭蕉 神農像讚

團扇贊
荊口 入學子贊

紫女之函贊

入學の贊

許六

儒宗何なりが猶子。活入今道をまねふ。契ドて云
とらま一は機棒七年乃才といふを。鈍引いて一
ぶ志らてこひく。大なる幅するもあつて。虫動さる

半相入るまけなる相乃若世など

紫芝園の贊

許六

五老井四絶之一絶也

(西平公之乃) 老たるる。王君仁意ある河ら。かたしとせ
いとし。泰乎含之乃時をさるる。いとめでくし。さ神とを

竹よあぐくとしてまじんもさよ。さふ心ながユキんさる
思うちとす神も代もあめまじり。又比雷なり神ハれを
ともいへり。あるまよいしく。東坡の屋よ人家にあふ。堂西よ
小園まると。古井乃石よ石芝あり。よよし東をせし。おて
喰ふ。味い鶏蘇子でく。ろがな老井乃よ小。サジ屋あり
さる西。一は東芝の思あり。ささる。坡翁が屋ら。余が
老乃比やるる。唯なる。齋ま小琴ドて云。

靈女之よ 二首並みよ
回更乃孫の子となるる一なり純
禪ハ傍らん如し念とある事ありき

我まぐ。いあ。魚なる。韓氏ら。楚よあつて。い川の執

戦^{ケン}事^ジの^ハハヤと^ハハ^ハも漢^{カン}は^ハく^ハて^ハ元^{ゲン}帥^{スエ}は^ハさ^ハう^ハく^ハ。
 終^{シュウ}は^ハ大漢^{タイカン}を^ハ興^{キョウ}と^ハ。災^{サイ}物^{モノ}も又^ハ回^{ヘイ}と^ハ。家^カの^ハハ^ハ心^{シン}の^ハ各物^{カクモノ}
 乃^ノ希^シ碗^{ワン}ハ^ハ魚^{イサ}店^{テン}何^{ナニ}ガ^ハ箱^{ハコ}乃^ノ飯^{イハ}器^キと^ハ。漢^{カン}人^{ジン}と^ハハ^ハく^ハ百^{ヒャク}
 貫^{クワン}乃^ノ道^{ドウ}外^{ガイ}と^ハを^ハせ^ハら^ハと^ハ。道^{ドウ}用^{ヨウ}の^ハハ^ハく^ハと^ハ。利^リの^ハハ^ハく^ハ。利^リの^ハハ^ハく^ハ。
 あり^{アリ}と^ハく^ハ。能^ネ又^{マタ}乃^ノハ^ハ。お^ハら^ハれ^ハ。出^デ積^{ゼキ}は^ハか^ハる^ハ。あ^ハら^ハ。

戦事... 漢... 元帥... 希碗... 魚店... 飯器... 漢人... 貫乃... 道外... 利の... 出積...

大
 漢
 道
 外

院サシ艷ミ書ミヨ

日蓮上人ニチレン報書ホウショ

壽同

書類

院艷書

五老并許選

○おまののまのフシロフのまのあり。鸞ウ姫ヒメをいひく。又
かまやふふとふりド身ミをまるとりド。いふまゝいも
みかよりく。まるとまゝみ字乃五一。えんまて。

日蓮上人報書

二 物モノをまひ。まゝいふまゝ。他ヒのやうな酒サケ末マ。
南無妙法蓮華經ナムモミョウホウレンゲキョウの回マはいふ。

以呂波文字序

上古日本乃文字ありて。今よ用はるるは。あま
 字あり。一。二。三。の比よわ。漢字よりきて。本。即。乃
 又。字。ら。さ。と。果。て。さ。る。も。な。り。り。と。假。名。字。の。子
 也。系。統。の。事。も。ゆ。訓。と。声。を。比。文。へ。用。ゆ。
 六。種。の。以。呂。波。文。字。あり。た。お。男。女。の。早。い。ね。を。と。て
 又。字。の。用。を。な。ま。さ。り。源。順。が。系。統。の。系。の。か。る。旨。も。
 声。と。訓。の。ま。ま。き。り。り。よ。が。改。な。れ。け。ら。る。た。備。公。
 乃。制。表。作。り。て。ア。イ。ウ。エ。ヲ。乃。を。お。お。の。文。字。と

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

と。大和假名といひたりなり。又いはは又なる世よ
弘法乃作とのいふも。一説志く。一説い

以呂波仁保土知利奴留遠。

以上十二字護命乃作。

和加与太礼曾門祢奈良年宇為乃於又也

末計不已衣天安庵幾由女羨之惠比毛世

寸。以上二十八字乃弘法の作。

京乃一字の傳教乃作也。いははらとて四十七字
なる。傳教は一字を加く。音韻を境の四女毛。

五七乃字はあつたよんきり。一二三よ。千五億の

数字の。聖法を子のかき入を。くふ流くめといふ。又ら

空海。勅撰。傳教の之師。共ノ造ともいつ。又兼良

乃纂疏。四十七字をを比り。弘法の夢。彼漢書を

假く。和字とかなとや。たまはるはを國字といひ

て。天竺震旦よむれなといひ。是よりく。漢字

あして。昔の虫のすく。なるを。又の孫を。虫歟。經

之乃々。海く。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。

ふが。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。

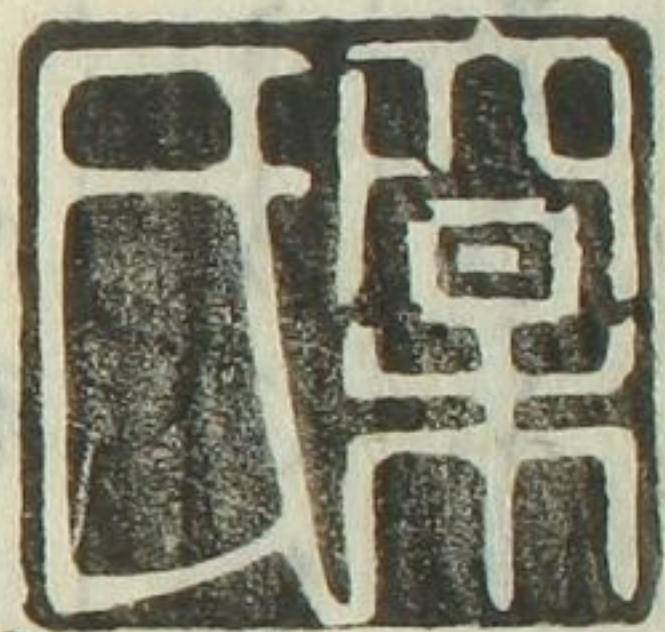
まり。せいはりまらるる世なり。もづいのはな。ノ乃一
 めく。たぬぎく。斜なる。一。一。世。一とんのか
 ち。き。い。い。い。世。ち。み。え。と。い。ふ。あ。り。と。い。ち。な。り。止
 乃字。よ。あ。ら。む。と。ま。づ。て。い。ら。は。を。訓。と。さ。う。を。皆。声。を
 用。ら。よ。い。く。む。た。な。る。り。ね。り。つ。乃。字。よ。終。後。
 を。い。門。乃。字。と。い。は。し。一。但。傳。む。ち。年。也。世。よ。あ。む
 と。お。め。り。ち。点。と。い。い。ふ。よ。あ。い。は。る。と。ま。く。く。あ。む。
 何。と。も。燕。公。の。押。乃。字。なり。お。の。字。は。お。や。く。し。な
 して。お。篇。の。能。る。を。非。也。又。を。の。字。は。遠。の。字。なり。

さい。は。口。乃。を。興。の。た。と。い。ふ。い。の。衣。の。字。と。い。ち。い。え
 え。い。い。ふ。ち。兄。乃。字。よ。物。を。と。終。橋。詣。兄。の。兄。なり。
 上。代。の。い。ら。は。又。な。り。中。は。今。ね。乃。字。を。わ。い。と。な。れ
 ち。い。ち。が。い。い。は。あ。む。あ。り。と。い。ひ。て。何。と。ぬ。お。は
 たり。果。し。ち。の。う。こ。源。氏。を。流。出。る。は。よ。と。い。ふ。を。や
 ち。ち。あ。む。ま。れ。と。い。ふ。は。京。式。ア。も。二。終。を。款。キ。と。い。ふ。と。
 中。世。露。る。所。傾。塔。の。書。ち。い。し。る。字。形。よ。い。い。は。乃
 借。り。な。し。け。は。な。む。ま。ら。る。人。も。た。く。ま。り。果。い。う。え。わ
 乃。字。教。し。う。な。り。ゆ。い。し。も。は。ら。う。い。一。京。路。受。心。完

一ノノノ

四十一

其... 二... 踏... 青... 水... 丙... 春...
之... 望...



右... 先生... 撰... 亦... 常... 軍... 先... 師... 范... 意... 為...
符... 之... 志... 又... 素... 未... 調... 為... 山... 之... 先生... 十...
五... 年... 弟... 孫... 始... 志... 終... 之... 功... 業... 轉... 終... 志... 秘...
之... 深... 藏... 之... 以... 人... 等... 亦... 難... 朽... 矣... 庶... 二... 三...
子... 合... 力... 而... 備... 教... 養... 為... 自... 他... 世... 在... 今... 本...
出... 與... 善... 林... 井... 荷... 存... 剛... 之... 梓... 全... 世... 一... 字...
德... 最... 至... 教... 也... 只... 恐... 僭... 偷... 罪... 可... 蒙...
和... 歌... 之... 神... 清... 符... 志... 幸...

寶永之丙戌年秋九月吉日

不老井門人

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

洛下二條下寺町野田治兵衛尉持

京師三條通升屋町

御書物所

出雲寺和泉掾

